

Sustainable Report No.054

昆虫事情から 考える森林問題

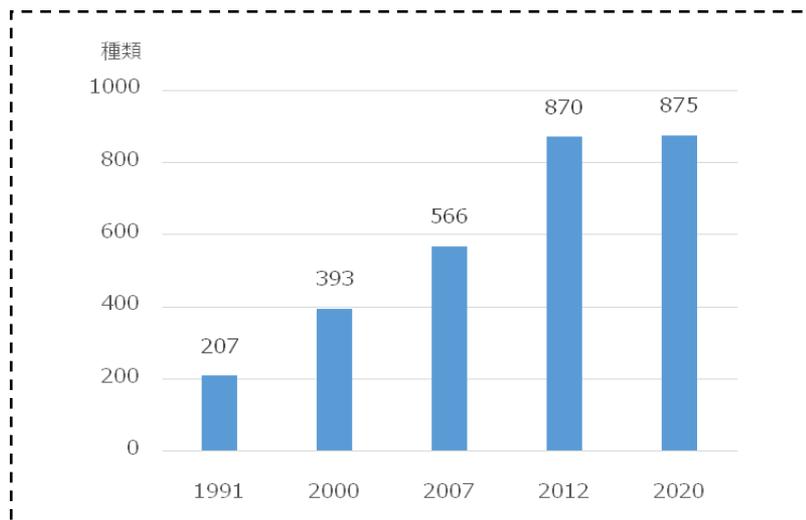


サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 森林開発による生物への影響

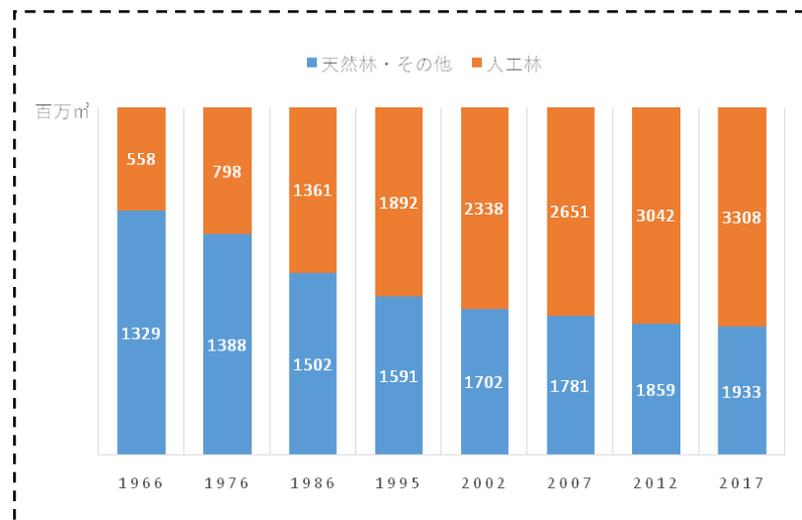
- 世界では、**約40%の昆虫が減少傾向**（2019年推計）にあり、将来的に絶滅する恐れがある
- 過剰な森林伐採や違法伐採、農地の開墾や焼畑農業、山火事などの災害、人口増加による材木の燃料利用（薪炭材）等の**人為的な活動によって昆虫の生息域が減少**している
- 仮に昆虫が絶滅してしまうと生態系のバランスが崩れてしまい、農作物が育たないなど昆虫以外の動植物の生存や、私たち人間の生活にも大きな影響が出ることになる

■ 日本の昆虫類の絶滅危惧類数



出典：環境省を基に筆者作成

■ 日本の森林蓄積の推移



出典：林野庁を基に筆者作成

昆虫の生息域保護のために

■ 活動内容

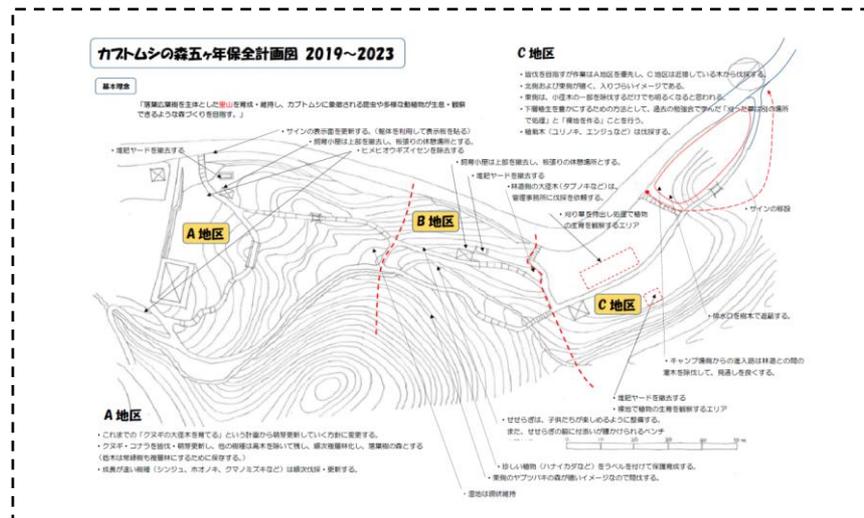
- 福岡県の市民グループ「**油山自然観察の森 森を育てる会**」では、森の保全活動を通じて広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を目的に、約40人からなる会員で活動を行っている
- 手入れされていない山林に**昆虫等が多く生息する広葉樹を中心に植林**を行い、カブトムシに象徴される多様な動植物の生息域を確保する森林保全活動を行っている
- 広葉樹の植林や保全活動は増えているものの、主に扱われるのは広葉樹よりも成長が早い針葉樹で、まだ取り組んでいる団体が少なく全国的に拡充していない

■ 活動風景



出典：左右共に油山自然観察の森 森を育てる会

■ カブトムシの森五年保全計画図

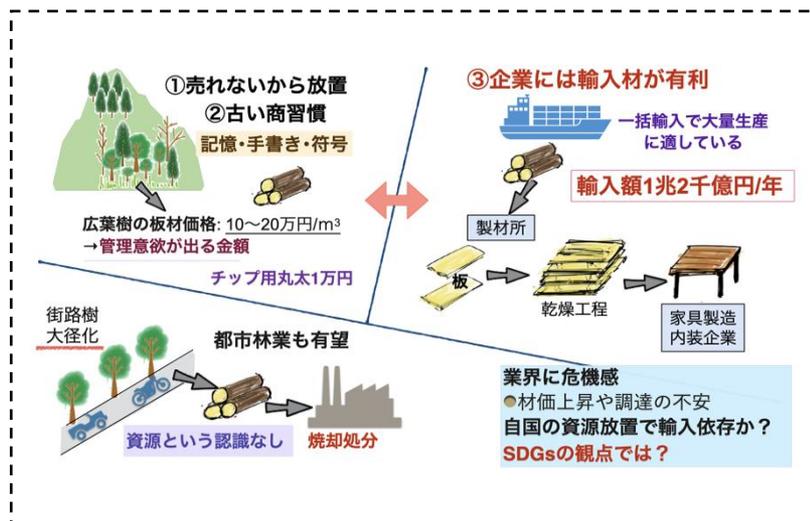


広葉樹の増加のために

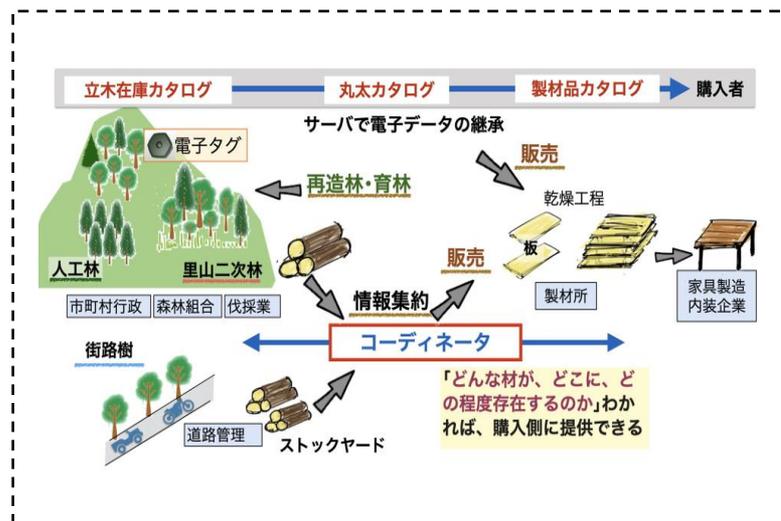
■ 木材の有効活用に向けて

- 広葉樹は、家具や内装材としての需要があるものの形状が画一的ではないため利用場所は限定され、**手入れされずに放置されて**必要な場所に届けられないことがある
- **木材と消費者が繋がる環境の整備**によって、効率的に必要なとする人に木材を届けることができ、広葉樹林の増加や有効活用、昆虫の生息域の拡大に繋げることが理想である
- IT技術を活用して**広葉樹の立木段階や出材時にデータベース化**を行い、「どこに、どんなものが、どれだけ」あるか可視化してトレーサビリティを確立することで、木材と消費者を効率的に繋げる

■ 国産資源の活用と流通の課題



■ デジタル管理イメージ



出典：左右共に里山広葉樹活用プロジェクト

新たな供給方法で広葉樹の有効活用へ

■ 参照・引用資料

- 環境省,「環境省レッドリスト2020の公表について」,2020年3月27日 (<https://www.env.go.jp/press/107905.html>)
- 林野庁「森林面積蓄積の推移」,2007年3月31日 (https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h19/2_2.html)
- 林野庁「森林資源の現況」,2023年4月5日参照 (<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/index1.html>)
- BBC NEWS JAPAN「世界各地で昆虫が減少、害虫は増加傾向に＝研究」,2019年2月12日 (<https://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-47207286#:~:text=%E4%B8%96%E7%95%8C%E4%B8%AD%E3%81%AB%E7%94%9F%E6%81%AF%E3%81%99%E3%82%8B,%E3%82%92%E5%A2%97%E3%82%84%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%81%A8%E3%81%84%E3%81%86%E3%80%82>)
- 森林・林業学習館,「日本の森林面積と森林蓄積の推移」,2022年8月23日参照 (https://www.shinrin-ringyou.com/forest_japan/menseki_tikuseki.php)
- BUSINESS INSIDER JAPAN,「我々は「6度目の大量絶滅」の過程にいる？ 昆虫の減少が表す危険なサイン」,2022年9月14日参照 (<https://www.businessinsider.jp/post-185010>)
- 日本自然保護協会,「昆虫たちの悲鳴が聞こえる一環境省の第4次レッドリストから」,2022年8月23日参照 (<https://what-we-do.nacsi.or.jp/2012/11/1539/>)
- 油山自然観察の森,「森を育てる会とは?」,2022年9月14日参照 (<http://www.morikai.org/shingokanen2019.pdf>)
- 油山自然観察の森,「カブトムシの森・アカマツの森 5ヶ年保全計画」 (<http://www.morikai.org/shingokanen2019.pdf>)
- 神戸大学 黒田慶子,「里山広葉樹活用プロジェクトの趣旨と概要」,2022年9月14日 (http://www2.kobe-u.ac.jp/~kurodak/mokuzai.html#%E7%A5%9E%E6%88%B8%E5%A4%A7%E5%AD%A6_%E9%BB%92%E7%94%B0%E6%85%B6%E5%AD%90_%E6%A0%AA%E5%BC%8F%E4%BC%9A%E7%A4%BEAndeco_%E5%85%B1%E5%90%8C%E4%BA%8B%E6%A5%AD)
- 株式会社アクセスインターナショナル,「家具やエクステリアに人気！ 新たな可能性を秘めた国産広葉樹の活用方法とは」,2021年5月31日 (<https://forest-journal.jp/innovation/30624/>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的著作権は小川電機株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。